

# 地域防災活動の拠点となる施設の規模と活動に関する研究

## —千葉県佐倉市の地域防災集会所を対象として—

日大生産工(院) ○遊橋 涼 日大生産工 古田 莉香子  
日大生産工 広田 直行

### 1.はじめに

#### 1-1.研究の背景と目的

近年、日本では首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模の災害が発生することが危惧されている。その対策として、我が国では災害対策基本法をはじめとして各自治体で防災計画をそれぞれ定めている状況である。

しかし、災害時における公的機関による救助(公助)には限界がある。過去の大規模災害である1995年の阪神・淡路大震災や、2011年の東日本大震災で家屋の倒壊などによる生き埋めや閉じ込められた人のうち、公助によるものはわずか2~3%であり、その多くは自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されている。このようなことから今後の防災対策では共助や自助に注力したものが重要になってくると考えている。

千葉県佐倉市では阪神・淡路大震災以降に、地域防災力向上のために、地域の人々による地域防災活動を支援する地域防災集会所を市内各所に設置している。

本研究では、千葉県佐倉市の地域防災集会所をケーススタディとして、災害発生時に地域防災活動の受け皿となる施設の計画的要件を明らかにすることを目的とする。その中でも本稿では、規模と活動について扱うとする。

#### 1-2.研究方法と調査対象

本稿では、平面図分析と観察調査、施設管理者へのヒアリング調査をもとに考察を行う。平面図分析では、集会所と防災倉庫・防災資機材倉庫の面積について把握する。観察調査とヒア

リング調査から、地域防災集会所での防災活動や地域住民の交流、避難所との連携について調査する。対象とする佐倉市には、地域防災集会所が5施設あり、地域防災集会所単体として設置されている施設は千代田地域防災集会所、臼井西地域防災集会所、志津地域防災集会所の3施設と、複合施設に地域防災集会所が含まれている施設が和田地域防災集会所と佐倉地域防災集会所の2施設の2種類がある(表1)。

#### 2.佐倉市における地域防災集会所

佐倉市における地域防災集会所は、平常時に地域のコミュニティ施設として利用され、災害時には、施設内に整備してある防災用資機材を活用して、地域での防災活動を行う場となることを目的としている。

地域防災集会所の配置場所を地区区分でみた場合、7地区のうち5地区に設置されているが、施設の規模や活動の内容より、それぞれの地域防災集会所の設置されている町会規模での利用を想定しているコミュニティ施設だと考えられる。地域防災集会所は一時避難所の役割を持っているが、防災拠点としての規模は総務省消防庁が定めるコミュニティ防災拠点に当てはまると考えられ、平常時から備える役割が大きいと考えられる。

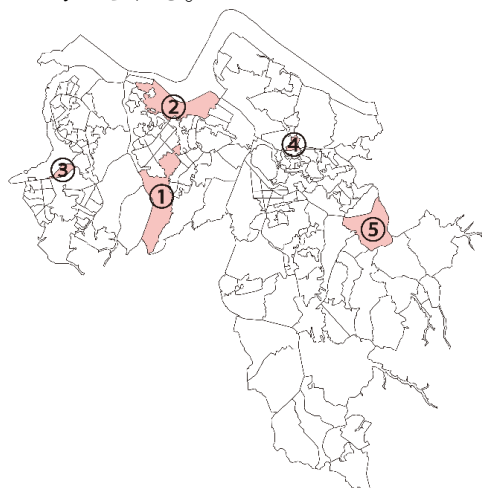


図1 佐倉市の町会分割と調査対象の配置

表1 地域防災集会所の概要

施設番号	施設名称	延床面積	建築年度	分類
①	千代田地域防災集会所	372㎡	平成10	単体
②	臼井西地域防災集会所	327㎡	平成11	単体
③	志津地域防災集会所	259㎡	平成13	単体
④	佐倉地域防災集会所	1714㎡	平成12	複合
⑤	和田地域防災集会所	1638㎡	平成11	複合

Research on the Size and Activities of Facilities that Serve as Bases for  
Community Disaster Prevention Activities  
—Sakura City, Chiba Prefecture, for a Local Disaster Prevention Place—

Ryo YUHASHI, Rikako FURUTA and Naoyuki HIROTA

### 3.各地域防災集会所の規模と活動

#### 3-1.千代田地域防災集会所の実態

千代田地域防災集会所のヒアリング調査は施設を管理している生谷自治会の方にヒアリングを行った。この施設の集会室の面積は約122㎡、防災資機材倉庫の面積は約26㎡である。

千代田地域防災集会所で主に防災活動を行っているのは、生谷自治会である。生谷自治会は染井野・千代田まちづくり協議会を構成する自治会の1つであり、佐倉市民防災訓練という大規模なイベントの運営を行っている。その活動内容は指定避難所である染井野小学校や臼井南中学校を会場として組立式トイレの研修や、臨時避難所の設営・運営の訓練を行っている。これらの活動を行う上で、施設内で難しいことは防災施設として短所であると考えられる。

また、千代田夏まつりや花火大会の準備を行う地域住民の活動の場となっている。これらの地域行事には周辺地域の小中学生や高齢者なども共同で動いている。その他にも、周辺の子どもの習い事の場としても活用されており、この事例の場合は書道教室などが行われている。以上のことより、平常時から共助の関係を築ける施設となっていることが千代田地域防災集会所の長所だと考えている。

#### 3-2.臼井西地域防災集会所の実態

臼井西地域防災集会所のヒアリング調査は施設を管理している臼井田自治会の方にヒアリングを行った。この施設の集会室は面積が約125㎡であり、40～60人程度の会議などが行える規模となっている(図3)。また、防災倉庫・防災資機材倉庫の面積は約22㎡であり、この施設は印旛沼周辺に設置されていることもあり、整備品目からも水害対策の備えがなされてい

臼井西地域防災集会所での活動は千代田地域防災集会所とほぼ同様である。近隣の指定避難所である臼井小学校と周辺地域を含めた合同防災訓練を年に一度行っており、また、自治会の防災班の方が定期的に防災・防犯教室を開催している。この施設がある臼井地区では、大雨や台風の際には浸水洪水被害が大きくなりやすいため、地域防災集会所が浸水しないように土のうや防水シートを優先的に設置する場所や方法を訓練している。小学校や幼稚園などと合同でスポーツ大会を通じて交流も生まれている。この施設の長所として幼稚園生や小学生に向けて防災を行っている点があり、短所として施設内での交流が少ないことがわかる。

表2 各防災倉庫の面積と整備品目

【施設名称】	千代田地域 防災集会所	臼井西地域 防災集会所	志津地域 防災集会所	佐倉地域 防災集会所	和田地域 防災集会所
【資機材・備蓄品目】	約26㎡	約22㎡	約27㎡	約15㎡	約24㎡
〈資機材・倉庫〉					
メガホン	10	10	3	4	8
トランシーバー	3	2	3	4	4
発電機類	3	3	2	3	5
投光器類	4	5	4	6	5
コードリール	2	2	2	2	2
間仕切り・テント類	30	10	7	5	4
〈避難生活用品〉					
ライト・ラジオ・電池・ローソク類	200	200	100	200	120
ホイッスル・ゴーグル・軍手他	60	70	50	100	80
ヘルメット・ハット	8	10	20	5	10
加熱グッズ・炊出し道具類	4	4	10	5	8
防災敷物・簡易ベッド	50	60	62	20	30
〈地震・火災対策用品〉					
消火器類	5	5	5	10	10
地震対策用品	20	80	100	20	10
〈救急・衛生用品・トイレ〉					
非常用トイレ・トイレ用品	80	100	50	2430	100
救急セット	4	4	3	10	8
衛生用品・清潔用品	60	50	50	150	100
感染症対策用品	50	50	50	100	80
〈水害対策用品〉					
水どりのう	10	20	10	10	20
水害対策類	5	40	10	0	15
〈救助工具・搬送用品〉					
担架・ストレッチャー	4	6	5	5	7
リアカー・車椅子・台車	3	3	3	3	2
工具類	15	18	14	10	14

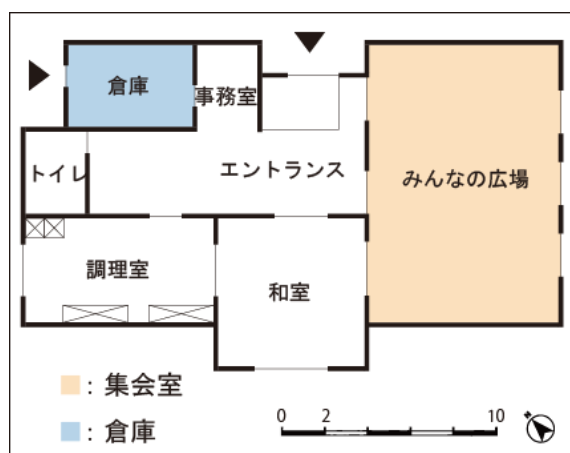


図2 千代田地域防災集会所の平面図  
ることがわかる(表2).

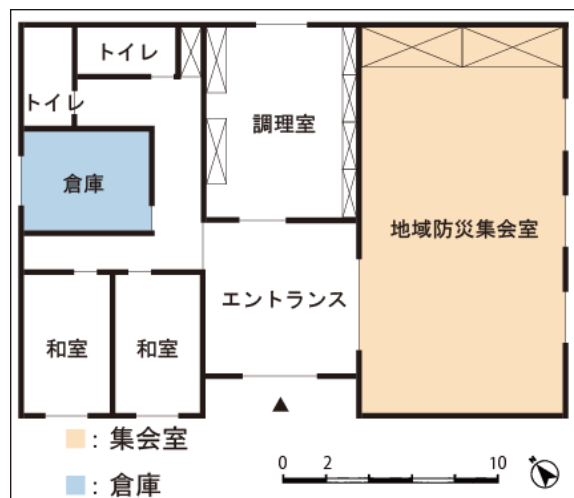


図3 臼井西地域防災集会所の平面図

### 3-3.志津地域防災集会所の実態

志津地域防災集会所のヒアリング調査は施設を管理している上志津二区自治会の方にヒアリングを行った。志津地域防災集会所はもとも志津地域健康促進センターという施設であり、使われなくなっていたところを佐倉市の危機管理課が改修し今の施設となった。この施設の集会室は居室として設けられてはならず、各居室にアクセスできる場所を集会スペースとして面積が約110㎡であり、30～50人程度の会議などが行える規模となっている(図4)。また、防災倉庫・防災資機材倉庫は施設内に設けられておらず、施設の裏にあたる屋外に一般的な倉庫が3棟設置されており総面積は約22㎡である(表2)。

上志津二区自治会が行っている防災活動として、自治会での防災訓練をはじめ住民による防災資機材の点検・備蓄、周辺地域の危険箇所の確認がある。また、周辺の指定避難所の上志津小学校と志津中学校がある。これらの避難所と災害時に連携が取れるように小中学校との合同防災訓練が行われている。また、上志津二区自治会では地域の広報を通じて地域住民へ防災活動の報告や告知などがなされており、地域として防災意識の高いのだと考えられる。そして、志津地域防災集会所は志津まつりや餅つき大会、太鼓演奏会などの地域行事の拠点となっており日頃から地域住民同士の交流が多い場所という長所がある。

千代田地域防災集会所と臼井西地域防災集会所、志津地域防災集会所は5施設ある地域防災集会所の中でも比較的小規模なものになり、施設で行われる防災活動は各地域の防災関係者による会議などが主であり、地域での防災訓練など活動規模が大きくなるとより大規模な施設を利用し行うことになっている。

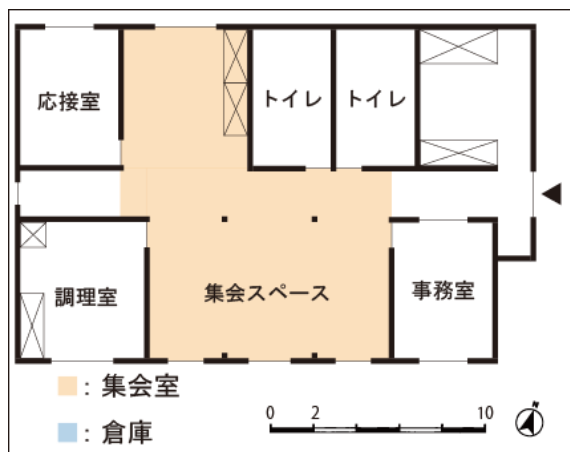


図4 志津地域防災集会所の平面図

### 3-4.佐倉地域防災集会所の実態

佐倉地域防災集会所のヒアリング調査は佐倉市危機管理課の職員の方にヒアリングを行った。佐倉地域防災集会所は、ミレニアムセンター佐倉という複合施設に地域防災所が含まれている事例である。複合施設のため、地域防災集会所の機能以外にも出張所や消費者生活センター、市民風呂などの機能がある。この施設は、自治会が管理しているわけではなく行政職員が運営している施設である。施設内にある地域防災集会室は2階に設けられており、面積は約25㎡で10～15人程度の会議などが可能な規模である(図5)。また、防災倉庫・防災資機材倉庫は1階駐車場の一角にあり、面積は約15㎡で他にも施設内には多くの収容スペースがあるため、それらにも資機材を収納している(表2)。

施設を運営しているのが行政であることに加えて、地域防災集会室に隣接する位置に市民防災啓発センターを設置していて、佐倉市の危険な場所や、体験を通して災害時の正しい行動について学べる場という長所がある。また、佐倉地域防災集会所で行われている防災活動は市の防災関係者による会議として地域防災集会室が利用されており、他にもホールで防災の講演や講話が行われている。そのため、佐倉地域防災集会所は地域に共助を促す役割よりも、地域住民に防災や自助の重要性を発信する公助としての役割が大きいと考えられる。

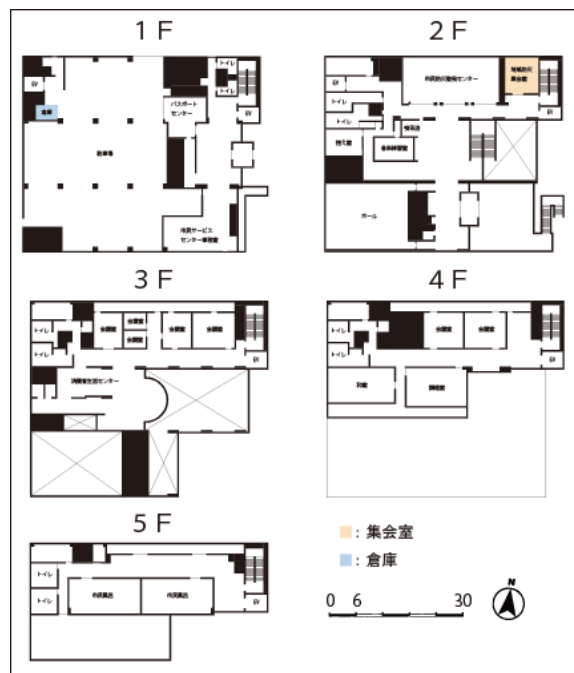


図5 佐倉地域防災集会所の各階平面図



### 3-5.和田地域防災集会所の実態

和田地域防災集会所のヒアリング調査は佐倉市危機管理課の職員の方にヒアリングを行った。和田地域防災集会所は和田ふるさと館という複合施設に地域防災集会所が含まれた事例である。この施設も佐倉地域防災集会所と同様、行政職員が運営している施設である。地域防災集会所の面積は約40㎡で10～20人程度の会議などが可能な規模である(図6)。また、防災倉庫・防災資機材倉庫の面積は約24㎡である(表2)。

和田地域防災集会所の防災活動は防災に関する会議などを行う場合は、地域防災集会所を利用するが、人数の多い訓練や研修、講演などを行う際には、一時避難所としても開放されている2階のホール・体育館が利用できるという長所がある。施設周辺にある指定避難所として和田小学校がある。災害時には和田小学校と連携できるように、小学校との合同防災訓練や防災教室が行われている。

和田地域防災集会所は周辺住民の集まる場としての役割が大きく、歴史民俗資料室やふるさと伝承室、高齢者談話室では、機織り体験や伝統工芸教室を通じて、子どもや高齢者などの要避難支援者になる年代の人との交流が生まれている。ホール・体育館ではスポーツ教室が行われており子供たちが集まる場となっている。また、和田地区は農業地帯が広がっており、農産加工実習室では農業従事者の意見交換や専門家による研修、協力して作物の加工を行うなどして地域の特徴ならではの交流が生まれていると考えられる。

佐倉地域防災集会所と和田地域防災集会所は地域防災集会所の中でも大規模なものである。この2施設は延床面積の大きさに反して地域防災集会所が小さく会議などの利用にしか使われておらず、防災訓練や研修などは施設が有しているホールや体育館が使われている。

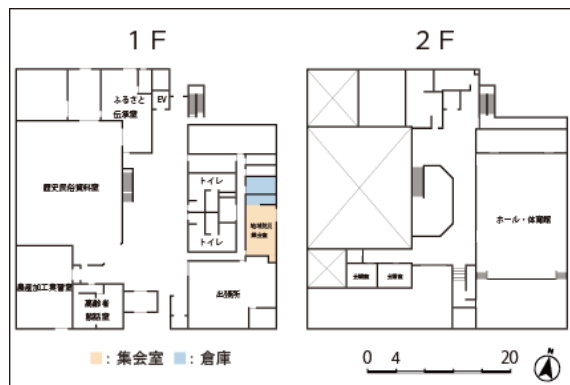


図6 和田地域防災集会所の各階平面図

### 4.まとめ

本研究では地域防災集会所の計画的要件を明らかにすることを目的に、本稿では地域防災集会所の規模と活動について実態を明らかにしている。それぞれの地域防災集会所をみた結果、地域防災集会所単体として設置されている事例と複合施設に含まれている事例とで規模や活動に差がみられることを表3にまとめる。

単体施設の事例の長所は、地域の防災拠点と地域行事の活動拠点の役割を兼任するような使われ方をしているところにある。地域防災集会所を防災拠点や避難所として利用するだけでなく地域に根付いた場所にするだけで、災害時に互いに助け合える共助体制を築くことに繋がると考えられる。また、短所は施設としては小規模なものとなるため、屋内でできる防災活動に制限がある点だと考えられる。

複合施設の事例の長所は、共助を促すための役割ではなく、大規模な防災訓練の会場や、防災に関する講演を行うことが可能で、施設のできる防災活動の幅が広く公助の役割も果たすことができると考えられる。一方、短所は施設機能の幅が広く様々な交流が生まれているが一つ一つが独立しており、単体の事例に比べて災害時に助け合える共助体制を築くことを目標にした場合、難しいと考えている。

今後は、地域防災集会所の計画的要件を明らかにするため、配置、機能、規模のそれぞれの視点を踏まえて施設計画の項目について検討していくこと課題とする。

表3 地域防災集会所の規模と活動

	地域防災集会所【単体】	地域防災集会所【複合】
規模	【集会室の規模】 約120㎡の大きさであり30～40人程の利用を想定 【倉庫の規模】 20～25㎡程の規模が必要	【集会室の規模】 地域防災集会所単体の事例より小規模の傾向がある 会議室程度の大きさ 【倉庫の規模】 20～25㎡程の規模が必要
活動	【防災活動・施設のみ】 防災関係者による会議 防災資機材の点検・備蓄 【防災活動・外部利用】 近隣の指定避難所と合同防災訓練	【防災活動・施設のみ】 防災関係者による会議 防災資機材の点検・備蓄 避難所設営・運営の研修 防災に関する講演・講話 周辺地域の合同防災訓練

#### 【参考文献・資料】

- 1) 佐倉市役所, 佐倉市防災ハザードマップ, 2022/6/11, <https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kikikanrika/112/hazardmap/5703.html>, 2022/10/12
- 2) 佐倉市, 佐倉市地区別防災カルテ, 2013年
- 3) 佐倉市, 佐倉市公共施設総合管理計画, 2022年, p. 57-63
- 4) 佐倉市, 佐倉市施設白書, 2022年, p. 53-58